

太平洋イカ類漁場調査

(抄 録)

黄金崎 栄 一 ・ 大 川 光 則

1997年6月～11月に西経175度以西の太平洋海域で、試験船東奥丸（140トン）、開運丸（208トン）でスルメイカ・アカイカの漁場調査を実施した。

スルメイカ

1997年の本県太平洋沿岸域に来遊したスルメイカは6月18日に八戸で漁期が始まり、八戸港における小型イカ釣り漁船による氷蔵漁獲量は、およそ 8,165トンと、近年では1996、1993年に次ぐ好漁であった。

太平洋系スルメイカは1989年以降増加傾向にあり、1997年の八戸・大畑2港の小型イカ釣り漁船によるC P U E（1日1隻当たり漁獲量）は過去最高だった前年には及ばないものの八戸で998kg、大畑で915kgと高い水準にあった。

アカイカ

1997年の八戸港におけるアカイカの水揚量は28,000トン余りで（原魚換算漁獲量56,463トン）、昨年を上回った。大畑港ではアカイカのほとんどが八戸港に水揚されるため6トンに留まった。

5月から行われた170度以東海域における漁獲は昨年を大幅に下回ったが、9月以降三陸沖～道東海域に形成された暖水塊が好漁場となったこともあって、沖合が不振だったにも係わらず170度以西海域での漁獲が伸び、全体として昨年より水揚が上回った。

発表誌名：平成9年度イカ釣り漁場開発調査資料23号（平成10年5月）

平成9年度外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する生物測定・標識放流海洋観測結果基礎資料集（平成10年5月）青森県水産試験場